

「ウララ...シズメタウシダケ
セキニシヨトツテモクロナイトネ♪」

深海 / 苗床

触手、孕ませ、出産

「ラギィ...お腹、壊れちゃうよおおお!!」

「助けて...」



「……」の私が捕まるなんて……」

「ウフフ、アナタミタイナレアナ娘が
手ニハイルナンテ」
「……キョウハ運ガイイワ」

「サイキンアナタチガ頑張ツテクレタセイデ
戦カブソクナノ……」

「セキニンヲトツテモラワナイトネ……
コレカラ、ワタシタチ苗床ニナツテモラウワ」

「ひっ！？な、なにを！？」

「ダイジヨウブ、ヨノ子たちニマカセテオケバ
キモチヨクハラマセテクレルカラ」

ズル

「キットヤミツキニナルワヨ」



「アラアラカワイイオママンコネエ、ヨイナガメダワ。」

「ア、こんな恥ずかしくもないんだから……！」

ズズ

ググ

「ゴウジヨウナ娘ネ……」

「デモ、ソウイウ娘ノホウガ皆ハリキルカラ、
コチラトシテハヨウツゴウナノヨ。」

「ひいー!?! いやあああ!?!」

「ドウカシラ? アナタ処女ノヨウダシ、
ヨウイウコトハハジメテデシヨウケド...
キモチガヨイデシヨウ?」

びっ

んっ

かっ

グ
チュン

グ
チュン

ズ
ズ



「ひぐうひぐう……！」

「マダマダオワラナイワヨ、
媚薬モウツテアゲルワト」

ちゅっ

先に針の突いた触手が
島風のクリトリスに媚薬を注入する。

「あぎい……？あひやああ……？」

「……これ……気持ちよすぎておかしくなっちゃうわ……！」



「サテ、ソロソロ慣ラシテイカナイトネ」

「はーっ、さーっ、いっやあぁあぁ……」

ギ
チ



「ぎい……!? 痛い……いい、抜いてえええええ……！」

「ガマンナサイ」

「サイショニカンツウシテオカナイド、
孕マセルトキニ大破シチャウモノ」

トッ
ブチ

ブチ

ガッ

ブッ
ブッ

「あぐらうらうらー」
「お腹、ニわされる……」



ザ

「あーっ……」

「な……中に……ぽい……吐……されて……」

かほ。

ゴッ

ボゴ

カク

ゴッ

び

び

び

「イイカンジネ、

コレテ種付ケモウマクイクデシヨウ」

「ひぐっ……提督……たすけて……」



「うぎー？」

腸と膣に深々と突き刺さった触手の先端から異物が送り込まれる。

ひきま

ホゴ

ヤ

「あぐっ……？」

（な、なにこれ……な、中にいったばい入って……？）

ブ

ガ

「体液トハマタチガツタカシシヨクテシヨウ？」

「ワカルカシラ？ソレハ駆逐級ノタマゴナノヨ」

「アノ子タチハ数ガオオイカラ、コウヤツテイッキニ流シコンデ、イチドニ受精サセルノ」

ガ

「うぎー？」

腸と膣に深々と突き刺さった触手の先端から異物が送り込まれる。

ひきま

ホゴ

ヤ

「あぐっ……？」
（な、なにこれ……な、中にいったい入って……？）

ブ

ガ

「体液トハマタチガツタカシシヨクテシヨウ？」

「ワカルカシラ？ソレハ駆逐級ノタマゴナノヨ」

「アノ子たちハ数ガオオイカラ、
コウヤツテイッキニ流シコンデ、イチドニ受精サセルノ」

ガ



「んんんんんんんんんん」

ガッ

うん

びん

ぐ

びん

「ウフフ、オシリカラ入ツタ性液が
クチノホウマデ届イテル」

ガッ

「コレダケチュウニユウスレバ、

間違イナクスベテノ子ガ受精デキルワ」

びん

びん

びん

数日後

「ソロソロ出産ノコロアイネ」
「オシリト、オマンコノ触手ヲヌイテアゲルワ」

「んっ…出るしいよお…」
（中の…出たがってる…）



「次ハ、オオガタ建造ニ挑戦シマシヨウ」

「大型…建造…？」



「この子ヲ、アナタノ子宮デアタタメテアゲナサイ」

ズ
ム

チ
ク

チ
ク

チ
ク

チ
ク

「あ……う……？こ、こんなに入るわけ……！」

「ダイジョウブヨ、ミンナサイショハソウワイウノ、
ホラアツチヲ見テミナサイナ」



「ソウヨ、彼女ハアアナタガ来ル前ニステニココヨニキテイタワ」
「トテモヨイ苗床ヨ、アナタニ負ケナイクライニネ♪」

「そ、そんな...雪風...?」

「アッ、アッ」

「アッ、アッ」

「アッ、アッ」

「アッ、アッ」

「アッ、アッ」



「膾肉掻き分けて、入ってくるのとおおー!!」
「ゆーいーいーいーいー!!」

「んぎいーきたああああー!!」
「赤ちゃん、ゴリゴリきてりゅーんー!!」

うわー

んぎ

んぎ

んぎ

ボゴ!!

ガ

んぎ

んぎ

「無理無理無理いいいいいい！！
絶対入らないよおおお！！！」

キッ

チッ

シッ

ガッ

グッ

カッ

クッ

「サツキノ娘ヲミタデシヨウ？
ダイジヨウブアナタニモデキルワ？」

「あまらうららら……」

「壊れちゃうらららららららら、壊れちゃうらららららららら……
ちよっとずつつ入ってきちちゃってるよおおお……」



「…アラアラ、ショックデ目ヲアケタママキゼツシテイルワ」

「…」

ドブドブ

ドグ

ゴリゴリ

「ホラ、ハイッター！言ッタデシヨウ？」

「がっ…うきぎ…」

かん

カッ

「アララ？気ガツイタノネ、サアハヤクヒリダシナサイ」

「う、ぐう……お腹……赤ちゃん出たがって……」

ドン！！

ドゥ
ドゥ
ドゥ

ガッ

うお

ブル

ブル





「さくらんぼりんりんりん……出産しながらふっつちやっつてるんりんりん……」

「んあああああああ……赤ちゃんできてきたあああああ……」

びん

か

びん

メ

イ

ガ

ん

ピョッ

「あ、かはっ……イグウ……」

「スゴイワネエ……コンナニイクナシテ、アナタハホントニヘンタイサンネエ」

アッ

ッ
ボ

ッ

（へん……タイ……っ……じゃあ、もっといっぱい孕んで、
イってでもいいよね？だってへんタイなんだもん！）

「はひい！ワタシヘンタイれすうらうら、
だからはやく次の種付けくらしやい……」

ビ
チャ
ビ
チャ



あひっ

アハハ

ゴウ

「アアアアア、ソソソソソ、ナニホシカッタノネ……
イイワヨオ、壊レルマデ種ツケシテアゲル……！」

ゴブ

グキキ

ビブ

ズ

ボ

カ

カ

「んほおおお、しゅーしゅーしゅー、お腹ポロポロとできてくる……」
「子宮に直接射精されて……！妊娠しながらイっちゃいますぅ……！」

〜数カ月後〜

「ビッグニュースヨ、アナタが頑張ッテクレタオカゲデ
鎮守府コウリヤクノタメノ戦力ガトトノツタワ！」

「モシ攻略ガセイコウシタラ、ゴホウビニ提督ヲツレテキテアゲル。」

「わ〜い！やったー！！棲姫おねえさま大好き！！」

「あ、でも……しまかぜのこんな姿見たら、提督驚いちゃうかなあ……？」

「ソウネエ、イキナリハシヨックガオオキイカモシレナイワネ」

「サキニ映像デモトツテオキマシヨウ、提督ヲトラエタラミセラレルヨウニ」

「はーいー」

「ミミテイルカシラ？アナタノ大事ナシマカゼハ、
優秀ナ苗床トシテワタシタチニヨウケンシンシテクレテイルワ」

「チヨウドイマカラ出産スルトヨロヨ」

アロハ

キヨク

キョク



「んぎいーきたああー!!おつきくで元気な赤ちゃんでてきたああー!!」

「……………」

ブ
リ
ュ

ク
ハ
イ
ッ
ン

じゅ



「はひひ、どうしてしたかあ？ていとくう……」

「しまかぜ、こんなおつきな赤ちゃんいっぱい産めるんですよお」

んこ

ぐぱあ

「あ、もしかしておちんちん勃っちゃいました？」

ぶあ

フル

「うふふ、大丈夫ですよお……もうすぐあえますから、

その時はしまかぜが提督の赤ちゃんいっぱい産んであげますからね♪」

びり



ほどなくして、大艦隊による飽和攻撃を受け、鎮守府は陥落する事となった。

END